

「とんでもない国」：軍事政権批判のラップ

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

教授 玉田 芳史

あるラップ曲がタイで爆発的にヒットした。直訳すれば「俺の国にあること」、内容に即せば「俺の国で起きているとんでもないこと」というタイトルの曲である。反独裁ラップ (Rap Against Dictatorship, RAD) を名乗るグループがビデオ・クリップを制作し、2018年10月22日にYouTubeにアップロードした¹。それから1ヶ月後の11月22日(午前9時)には視聴回数が3,900万回を超えており、「好き」は102万、「嫌い」は3万と大好評であった。歌詞はタイ語である。英語、中国語、日本語の字幕も選べるとはいえ、そして視聴を繰り返すものがあるとしても、その再生回数がタイの総人口の半分以上に達しているというのは驚異的というべきであろう。

この曲については、福富渉が『『すべての人々よ、団結せよ』：タイのhiphopプロジェクト〈rad〉がアゲンストするものとは?』という題名で優れた解説を書いている²。本稿では、政治的意義に重点を置きながら、紹介したい。

1 SNS 合戦

2018年9月12日に選挙法が施行され、プラユット政権は選挙を意識した広報活動に力を入れ始めた。前日の9月11日には広報に長けたプッティポン・ペンナカンを首相官房副長官に任命していた。9月13日に日本のAKB48から6名を政府官邸に招いて話題作りの材料にした。首相はフェイスブックなどのSNSを通じた広報により本格的に力を入れるようになる。首相のSNS活用を仕掛けたのはプッティポンであった。政党にはSNSの活用を禁止したままなので、これは首相にひとしお有利な事前運動と思われた。それに冷水を浴びせたのがRADであった。

1-1 プラユット首相のSNSデビュー

プラユット首相は2018年9月24日に「政治に関心がある」と初めて明言し、総選挙後の首相就任への意欲を見せた。首相は2018年10月15日にソーシャル・メディア・サイトにデビューした。前日10月14日の夜に、「多くの人がフェイスブックで日常的にやりとりをしているので、私も個人としてのフェイスブックを始めることにしました。私や政府の政策や仕事について伝えるチャンネルのひとつにするためです。

¹ <https://www.youtube.com/watch?v=VZvzvLiGUtw>

² <https://i-d.vice.com/jp/article/439v3n/hiphop-project-rap-against-dictatorship>

有益な情報も伝えたい。私と国民の皆さんの相互理解をよくするチャンネルにしたい。助言があれば、意見交換をしたければ、解決して欲しい問題があれば、書き込みをして伝えて欲しい。」とフェイスブックに開始宣言を記していた。フェイスブックのアカウント名は@prayutofficial、インスタグラムのアカウント名は prayutofficial Instagram、ウェブサイトの URL は www.prayutchan-o-cha.com、ツイッターのページは@prayutofficial Twitter である。上意下達の一方向の発信ではなく、国民の声に耳を傾ける姿勢を示そうとする選挙を意識した方策であった。

1-2 RAD のアップロード

首相が SNS デビューしてから 1 週間後にその出鼻を挫くことが生じた。RAD が、「俺の国にあること」の音楽動画をユーチューブにアップロードしたのである。RAD はそれに先立つ 10 月 13 日には動画のないファイルをユーチューブにアップロードし、自分たちのフェイスブックで告知を行っていた。だが、どちらのファイルもさほど注目を浴びたわけではなかった。

視聴回数が桁違いに急増するのは 10 月 26 日であった。同日朝、警察副長官のシーワラー・ランシプラマナクンが、この音楽ビデオ「クリップを見る限りでは、その内容が違法かどうかは五分五分である。技術警察に NCPO の命令に違反していないかどうかを調査させる必要がある。映像に映っているものたちについては出頭させて・・・事情聴取する必要がある。制作したものたちに、国法に違反するかもしれないことをすべきではないと警告したい」と述べた。

10 月 24 日の閣議で政府報道官任命が決まったプッティポンは 10 月 26 日の昼前にこう述べた。「若者は音楽の知識や能力を祖国にとってもっと有益なことに使うべきであり、ほかの若者の手本になるべきである。この楽曲に刺激されて、ほかの若者が粹だ、よい、楽しいなどと考えて欲しくない。このビデオ・クリップを作った若者が、自分たちで決めて作ったのか、背後に誰か黒幕がいるのかは分からない。（下線引用者）」

歌詞の内容が日頃からニュースで流れており作り話ではなかったにもかかわらず、警察はコンピュータ犯罪法を適用して、ソーシャル・メディアで虚偽の情報を流した罪に問おうとした。2013 年から 2014 年にかけて反インラック政権デモ隊 (PDRC) を率いたステープ・トゥアクスバンは、このラップを「祖国への加害行為だ」と批判し、民主党の広報担当マンリカー・ブンミートラクーンは「刑法 116 条（煽動罪）に違反しているので、警察による取締を支持する」と表明した。

しかし、政府の強硬姿勢が明らかになると、視聴回数が激増した。26 日のうちに 100 万回を超え、1,000 万回に達した。翌日には 2,000 万回へと膨れ上がった。この曲の映像を撮った監督が、「警察と政府の過剰反応に感謝しなければならない。そのおかげで視聴者が増えた」と述べた通り、政権側の姿勢が RAD への関心をかき立てて

いた。

プラユット首相は10月29日午前中に北部パヤオ県で次のように述べた。「些事に関心を払う必要はない。人びとがウェブサイトやソーシャル・メディアでどんな音楽を聴くのか、私は知らないし興味がない。関心を強めると、大ごとになってしまう。タイの現状について、歌詞の通りなのか、判断し考えたらよい。…それほどの独裁なのか。もし独裁体制であれば、首相の私がこんな風に地方に出向く必要がない。…独裁なら、命令を下すだけであり、利益を追求するだけである。私はそんなことを考えたこともない。私は多くのことを成し遂げてきたと自負している。想定以上に多くのことをしてきた。それをねじ曲げて伝えられるのは困る。…誰かの道具や手先になってはいけない。(下線引用者)」

この発言を受けて、10月29日の昼前に、シーワラー警察副長官は、現段階では法律に違反している証拠はなく、聴いても歌っても共有しても問題がないと述べた。同日、報道官のプッティポンも、政府は何も命じておらず、態度を保留しており、関連部署に任せていると述べた。軍事政権は、選挙を実施し勝つつもりがなければ、関係者を厳しく処罰したことであろう。しかし、爆発的な人気を得た歌を処罰すれば、票を減らすことになっても増やすことはないため、放任するしかなくなった。

1-3 世論調査

「俺の国にあること」の視聴回数が鰻登りに増えていた時期に、世論調査が実施されていた。ひとつは、10月29日から11月2日にかけて1,259名を対象として実施されたNIDA（国立開発行政大学院大学）の調査である。もうひとつは10月30日から11月3日にかけて1,117名を対象として実施された国立スワン・ドゥシット教育大学の調査である。

NIDAの調査では、RADのクリップを視聴したことのあるものは41.9%であった。視聴経験者は、気に入ったが30.9%、嫌いが15.4%、どちらでもないが53.7%であった。視聴未経験者は、とても視聴したいが8.3%、視聴したいが12.4%、あまり視聴したくないが28.6%、まったく視聴したくないが50.7%であった。視聴経験者の感想は、事実を反映しているが51.6%、政治や社会を批判しているが39.7%、ラップがきつい表現を用いるのは当たり前が18.4%、表現が荒っぽいのが10.8%、タイのことを悪く言い過ぎているが7.9%、社会の分断をあおるが6.6%、政治的な思惑が込められているが6.5%、10月6日の映像を用いるのが適切ではないが3.6%であった。

スワン・ドゥシットの調査では、この曲の印象を尋ねると、一部のものが政治目的に利用しているが60.5%、社会全体に配慮し、あらゆる意見に耳を貸して対立を止めて欲しいが35.7%、社会の実態を反映しており、考え方の食い違いがあることを示しているが20.8%となっていた。

6割近くの人びとが視聴したことがなく、その半分以上が視聴したくないと答えているものの、ラップ音楽がメジャーなものではないことを踏まえるならば、4割を超える人びとが視聴していたというのは驚異というべきであろう。好き嫌いはさておき、歌詞の内容が事実と受け止めているものが多いことも重要であろう。

1-4 タイランド 4.0

工業・技術大臣スウィット・メーシンシーは、若手実業家500名ほどを2018年11月1日に政府官邸に集めて、「起業して一緒にタイの将来を決める」という行事を開催した。会場へプラユット首相が登場すると、「タイランド 4.0」という曲が流された。工業・技術省の革新事務所が制作したその「タイランド 4.0 タイ人は戦える」というラップ音楽動画は11月3日にユーチューブにアップロードされた。

この曲を11月1日に耳にしたプラユット首相は会場の参加者に向かって、「内実のある曲だ。私は気が優しい。とはいえ、私への気遣いもお願いしたい。私が責任を負っている多くの事案は、みなさんの気持ちや仕事に影響を与えることがある。私は警告しなければならないこともある。それはみなさんの妨害をしようということではない」と述べた。RADからの批判にさらされる自身への配慮を要請し、「タイランド 4.0」が応援歌であることを示唆する発言であった。スウィットはかねてから用意していたと説明したものの、RADなくしてこの曲はなかったということで衆目が一致している。

「タイランド 4.0」は、タイ人が優秀であり、協力して革新・刷新を進めれば、諸外国に伍して発展していけるという内容になっている。かいつまんで紹介すれば次の通りである。タイ人は頭脳明晰であり、革新を成し遂げられる。農業は工夫すれば作物の価格を上げられる。発明家はソフトウェアを開発し、ロケットを作る。学生は教科書にないことを考えて金持ちを目指す。事務職員や生産労働者は考えるのを止めず生活を改善する。自画自賛の歌詞、ラップに似つかわしくないメロディーを特徴とする曲の背景では、最新鋭工場、製品展示場、研究室、実験室、都心、最新技術を用いた農場、そして政府幹部などの画像が流される。新未来党党首のタナートーン・チュンルンルアンキットは、11月4日に、この曲について「力がまったくないラップである。制作した人たちの文化にそぐわないため、下品な表現がない。心に突き刺さって共感を呼ぶような社会の実態を歌っていない」と酷評した。タイ語を聞き取りにくい「俺の国にあること」にはタイ語の字幕がなく、英語、中国語、日本語の翻訳字幕を選べるのに対して、タイ語を聞き取りやすい「タイランド 4.0」にはタイ語の字幕がついている代わりに、外国語の字幕は用意されていない。この違いは、制作者が想定する視聴者の違いに由来するのであろう。

初日の11月3日の20:30には、視聴が892,000回、「好き」が184、「嫌い」が2,500であった。11月5日の朝までには、視聴回数が130万回、「好き」が871、「嫌い」が

20,000である。11月6日は視聴回数が340万回に達した。ただし、好きは2,700であり、嫌いの44,000と大きな開きがあった。11月24日午前7時には、視聴回数460万回、「好き」が4,405、「嫌い」が6.4万であった。RADのほうは1ヶ月後の11月22日（午前9時）には視聴回数が3,900万回を超えており、「好き」は102万、「嫌い」は3万と大好評を博している。視聴回数が1桁異なり、「嫌い」の割合がRADの3%に対して「タイランド4.0」は94%であって、天地の開きがあり、SNS合戦はRADの圧勝であったといえよう。

2 とんでもない国

RADの曲は歌詞に俗語が多く、誤読の可能性があることを承知の上で、あえて訳せば、次の通りである。

2-1 歌詞

おまえたち知らないだろう
このクソみたいな国に何があるのか
俺たち全員で教えてやるよ

1

黒豹がライフルの凶弾に倒れる国
道徳を雄弁に語るけど、犯罪発生率がエッフェル塔よりも高い国
法律が仏法にも聖書にもかなわない国
善人がアイドルのようにもてはやされる国
裁判官の官舎が国立公園内に建てられる国
首都の中心繁華街が殺戮現場になった国
指導者が建設資材で甘い汁を吸う国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

2

調査なしに汚職がなかったことになる国
大臣の腕時計が故人のものとされる国
国会が軍人の遊び場になる国
憲法を起草して軍隊に足蹴にさせる国
芸術家が謀反人のふりをする国
謀反人が国家権力に怯える国
謀反人がアリの群れのように国家に服属する国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

3

スーツをまとった連中が何かを語り目配せする国

政策に翻弄される貧乏人は 30 バーツ医療カードがなくて死んでしまう
権力に溢れる連中が野生の虎を魚の刺身をつまむように簡単に捕まえる国
犯人が分からないので俺の仕業じゃないという
人を殺しても金があれば裁判で有利になる国
法律が「ワンピースの」ルフィの腕よりも伸びる国
善行をなせ善行をなせと、人が心にもないことをいう
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

4

銃口が喉元に突きつけられる国
自由にしていよと言いながら、選ぶ権利のない国
口から出かかっている罵れない国
おまえがやったことを、指導者がお節介にも覗き込む国
主権が下劣な連中に奪われた国
真実に口を噤むか銃弾を口に撃ち込まれるか選ばなければならない国
強者が弱者を食いにし、獣のような連中が群衆を銃撃する国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

5

誰も政府を罵れない国
警察が脅すために法律がある国
思慮のある人間が眠ったふりをしなければならない国
おまえが居たなくても、居よう強制される
人びとが、特に指導者が、本を読まない国
刑務所に入りたくなければ、おとなしくしておけと言われる国
地位の高い連中が汚職をしても罪に問われない国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

6

政党が二派に分かれる国
都市住民が二派に分断される国
両派のデモ隊がたくさん殺された国
両派がともに軍隊をとて恐れる国
4 年たったのにクソ野郎は選挙をまだしない国
クソ野郎が俺にも選べると言う自由な国
首相を軍隊に選んでもらう国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

7

予算支出額が見積もりを超える国
公務員の自宅に不正資金を隠す悪質な国
指導者がかなりウザい国
法律があっても、マシンガンを発砲し死屍累々の国
人びとが井の中で幸せに暮らす国
軍事政権のもとで4年がすぎた国
誰も国会の中を歩いたものはいない
言わなくても分かっているけど、うんざりな国だ
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

8

常識以外はすべてが揃った国
何でも思い通りになる呪文のようにお金で歯車が回る
悪の光を放つ宝石へと長い間に結晶するかもしれない
強欲の石の猿の群れのようにありがたがる
バカになるほど酔いつぶれて、反応できなくなる
正しいかどうかを気に掛けなくなり、畜生たちがのさばるのを放置してしまう
闇と恐怖ですべてを支配する
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

冒頭から続いてきたモノクロ画像に、ここで初めてカラー画像として、国旗の三色のギターが登場する。この後、遺体、それを椅子で殴る男、ほほえむ野次馬の映像が登場する

9

準備はできたかい？準備ができたなら、奴らに対して中指を立てて、一緒に進もう。
未永く繁栄する本当によい国は、長続きせず、搾取され嫌われ世界中で噂になる
国際社会で制裁を受けて、誰もが苦しむ国
悪魔の体裁でクーデタが起き、人びとが堪え忍ぶ国
夜中に抗議集会へ銃弾を撃ち込む国
法律があっても神聖ではなく、破滅している国
税金を使う連中を増やして、浪費する国
俺の国には、俺の国にはこんなことがある

10

呪文で法律を言い訳に変えられる国
国民が上半身に希望を、下半身に貧困をまとう国
耳をふさぎ、隙間の国民の声を聞かない国

誰もがばらばらに話したり聞いたりする国

みな儲けたいので、公務員採用試験で袖の下を要求し、受験者も競って答えようとする国

銃身に込める銃弾のように偽の約束をし、偽の体制を作って愛せという国

不服従には椅子をお見舞いする国、日にちを数えるのが好きなら分かるだろう

俺の国には、俺の国にはこんなことがある

2-2 主なトピック

この曲は 10 名の自作自演のラッパーの歌詞を寄せ集めたものであり、整序されておらず重複も多い。しかしながら、メッセージは明瞭であり、銃口と法律で国民を抑圧し、汚職や不正がまかり通る現状に対する憤りがひしひしと伝わってくる。ここではいくつかのトピックについて簡単に解説しておきたい。

黒豹がライフルの凶弾に倒れる国

2018 年 2 月に大手建設会社イタリアンタイの社長プレームチャイ・カンナーストが逮捕された。狩猟が禁止される黒豹を撃ち殺して解体した容疑であった。

裁判官の官舎が国立公園内に建てられる国

チェンマイのドーイステープ山麓の風光明媚な森林を切り開いて裁判官の官舎が建設された。民間人には開発許可がまず出ない地区であった。2018 年 6 月の完工前に激しい批判を浴びた。後に、裁判所は反対運動の活動家を名誉毀損で訴えることになる。

大臣が死者の腕時計を身につける国

副首相兼国防大臣プラウィット・ウォンスワンがロレックス、リシャール・ミル、パテックフィリップといったブランド腕時計を 25 個も所持していることが 2017 年 12 月に明らかになった。それらは 1 個あたり 100 万円から 1,000 万円の高級品であった。プラウィットは法律で義務づけられる入閣時の資産申告でそれらの時計を申告していなかった。彼は由来を問われると、腕時計収集を趣味とする中学校時代からの知人の実業家から借りたものであり、その知人は 2017 年に死亡したと釈明した。真偽の確認は遅々として進んでいない。

国会が軍人の遊び場になっている国

民選議会は 2014 年 5 月クーデタで解散され、国会はクーデタ評議会 (NCPO) による任命議員で構成されている。最初は 2014 年 7 月 31 日に 200 名が任命され、その後辞職・死亡・追加任命が繰り返され、2018 年 10 月 1 日時点では 242 名となっている。議員のもっとも多くを占めるのは軍人である。議員には毎月 113,560 バーツが支給される。

憲法を起草しては軍隊に足蹴にさせる国

軍隊は2006年クーデタで作った2007年憲法を2014年クーデタで破棄し、新憲法を起草させた。2016年に完成した草案は、自由でも公平でもない国民投票で可決され、2017年4月に公布施行された。改正の余地を著しく制限しているため、改正には軍事クーデタによる破棄が必要と考えるものが多い。

デモ隊が銃弾で殺される国

2005年以後のデモの応酬では多数の死傷者が出てきた。犠牲者は赤シャツ(UDD)に多く、とりわけ2010年には首都中心部で多数のものが銃弾の犠牲になった。軍隊は60万発近くの実弾を持ち出し、うち5分の1ほどを使用していた。狙撃用の銃弾は3,000のうち2,120が発砲された。軍隊は責任を認めようとしなない。

4年間も選挙がない国

プラユット首相は選挙の先送りを繰り返して居座ってきた。選挙法施行後は、2019年2月に総選挙を実施すると述べているが、選挙日程は公表されておらず、先送りされる可能性がある。

公務員の自宅に不正資金を隠す国

2018年10月18日最高裁政治家犯罪部は、元運輸事務次官に2,000万バーツの資産を隠匿したとして実刑判決を下した。2011年11月の大洪水時に次官宅に侵入した窃盗犯が数億バーツの現金を見たと言ったのが露見の発端であった。それは大臣から預けられたものと噂されている。

法律を呪文で言い訳に変えられる国

NCPOはクーデタ後、NCPO命令、NCPO布告、NCPO議長命令を500以上も出してきた。NCPO議長は2014年暫定憲法44条に基づいて何でも命令できることになっている。

政府批判を許さない国

NCPOは国民の政治的自由を厳しく制限してきた。クーデタ後に摘発された者は、少なくとも、刑法112条の不敬罪が94名、116条の煽動罪が91名、NCPO布告2014年第7号とNCPO議長命令2015年第3号による政治集会禁止が421名いる。NCPO政権への批判に対しては、煽動罪やコンピュータ犯罪法が用いられてきた。

3 制作者の弁

この曲は反発を招いた。主たる批判は、動画と黒幕である。まず、政治の現状を批判する歌の背景に、1976年10月6日の蛮行再現映像を用いる点である。代表的なものとして、プーチャットカーン紙から引用すると次の通りである。「制作者は過去の暴力場面を用いて、国家権力の残虐さを表現している。・・・曲が独裁への批判だけを狙いとしているのであれば、1973年10月や1992年5月の暴力事件のほうが適切では

ないか。(下線引用者)」次に、「映像の制作には費用がかかるので、資金援助者がいるのではないか、誰かの指図を受けているのではないか。その手先にされているといった可能性はないのだろうか³」。この点は、無思慮で無力な若造たちの作品というとらえ方と通底していた。政府報道官プッティポンの10月26日の発言や、プラユット首相の10月29日の発言がそうであった。これらの点について、作り手側の声を聞いてみよう。

3-1 制作動機

この曲の映像を制作した監督ティーラワット・ルチンタムのインタビューが、締め付けが始まろうとする直前の10月25日にオンライン・ジャーナルに掲載された。ラッパーの一人が2016年に原曲を作り始めた。2017年末から仲間3名と共同制作の相談を始め、ほかのものたちにも参加を呼びかけた。基本方針は4人組が決めた。歌詞の内容については、各人がそれぞれの関心に応じて決めた。

政治をよく知らない人が聴いても、理解できる曲になるよう心がけて作った。その結果、聴いたら、あれもこれも当たっていると感じ、中には不満を抱くものも出てくる曲になった。我々の共通目標は独裁体制への抵抗である。独裁というのは軍事独裁だけではない。政治に対する人々の姿勢を変えるには時間がかかる。この曲を聴く人が増えれば、あれこれを話題にしてもよいのだと考えるものが増える。賛否を問わず、この曲に反応してくれることが、覚醒だと思う。

国民が二分された後、我々は黒子として活動してきた。政治団体「抵抗する市民の会 (resistant citizen)」の活動を背後から支援してきた。ずっと正体を隠してきたが、今回は明かすことにした。こそこそと隠れている必要はもはやないと考えた。恐怖心や自己検閲に押さえ込まれる社会は機能しない。何か信じることがあれば、勇気を出して戦い、それを主張すべきである。

次に、2016年に原曲を書いたラッパーはこう述べている。「楽曲の狙いは独裁への抵抗である。しかし、独裁への抵抗をめぐる考え方や力点の置き所はラッパーごとに異なり同じではない。」また、「タイ人は批判的に物事を考える教育を受けていない。」「タイのこれまでのラッパーは、そうした教育の産物だった。このため社会や政治に言及する歌詞はあまりなかった。」「ところが、ここ10年間の政治危機は・・・2度の軍事クーデタにつながり、度重なる流血の路上抗議活動を招いてきた。」「この政治対立は、旧世代のタイ人に政治への倦怠感を抱かせたけれども、若者の間では高齢の支配エリートとりわけ軍事政権への不満をかき立ててきた。意見が異なる人々の口を封じようとしてきたことが憤懣の主因であった。」

³ “Chamlae#prathet ku mi khwamcing thi ma cak kan ‘cat-tang’”, *Phucatkan Online*, Nov 3, 2018 (<https://mgronline.com/daily/detail/9610000109487>)

また、中心になったラッパー4人組は、警察が取締に乗り出そうとした10月26日にタイラット紙のインタビューに答えている。それをかいつまんで紹介しよう⁴。質問：黒幕がいるのではないか。「黒幕などいない。2017年末から制作に取り組んできた。歌詞を書いたのは10人である。ラップを歌っているのはそれぞれの歌詞を書いた当人である。各自は自分が書いたところを歌っている。」質問：無思慮な若者なのか。「我々は若者ではない。30歳を超えた者が多い。仕事があり、教育を受けている。長く生きており、この国でどんなことが起きてきたのかを知っている。一番若いメンバーでも20歳を超えている。」質問：政府が怖くないのか。「歌詞で法律に違反する箇所があるだろうか。」「怖いのは、我々が伝えようとすることを、人びとに理解してもらえないことである。」

3-2 10月6日事件の映像

映像監督のティーラワットは、10月6日事件を映像に用いた理由について問われると、次のように答えている。発端は、映画「10月14日：人民戦争（英語名は *The Moonhunter*）」（2001年封切り）の制作である。映画には10月6日事件の場面を含める予定であった。しかし、監督（バンディット・リッタコン）が反対したので、含めないことになった。その当時はこの決定に納得がいかなかった。2017年に10月6日事件の記録保存事業⁵を手伝い、事件に関する資料を読んだ。事件当日に遺体を吊した木を特定するのを手伝うよう依頼を受けた。ちょうど楽曲を作る時期と重なっていた。あれこれ思案するうちに、木に遺体を吊るし、暴行を加えるのを野次馬が取り囲んで喝采を送る場面を用いることにした。その場面は静止画で目にすることが多い。撮影では、カメラを真ん中に据えることで、視聴者に何かを感じ取ってもらおうとした。10月6日事件は、今日のタイもかかる病の症状が出たものであって、時代錯誤の昔話ではないと考える。ラッパーがそれぞれのパートを歌う中、カメラで周囲の野次馬をぐるりと撮影し続けた。カメラを回転させて周囲を撮影するのは、円の中を回っていて出口のないタイ政治の状況と同じである。民衆が学習せず、権力者も学習しないため、歴史が繰り返される。

この曲は5分間なので、映像は次のような構成にした。「ラッパーが登場してラップを歌い、その背景には拍手をする人びとを配した。当初は何に拍手を送っているのか分からない。歌を聴いて楽しんでいると思われるかもしれない。しかし、椅子を持った男が登場し、遺体に叩きつける場面になって、視聴者は理解する。」この場面を用

⁴ “Thi raek! Poetcai khon tham phleng prathet-ku-mi thi ma sang phleng duat khrai yu buang lang?” *Thai Rat*, October 26, 2018.

⁵ その成果の一部は学術論文として発表されている。Phuangthong Phawakkaphan and Thongchai Winitcakun, “Kantharai sop mua 6 tula 2519”, *Fa Dio Kan*, 16(2)(2018): 43-64.

いることの是非について迷ったので、10月6日事件記録保存事業の研究者に尋ねると、事実から目を背けるべきではない場合もあると教えられた。10月6日に首吊りにされたのは、従来伝えられてきたような2名ではなく5名以上であって身元不明者もいることが、ここ1、2年の調査で判明したというのがその理由であった。真相究明が進まないままに40年以上が過ぎてきたことに驚いた。当時の凄惨な状況の画像を多くの人には直視できないために、誤解が生まれていると思われる。暴力の再現にすぎないという意見には賛成できない。暴力を包み隠さず表現すべきこともある。それによって、人々は感じ取り、事実を知ることができる。

また、ラッパー4人組の1人は、2018年10月31日のセミナーで、10月6日政変の映像を用いたことについて、「10月6日政変に決めるまでにいろんな考え方をぶつけ合った。10月6日は国民が少なくとも2派にはっきりと分かれていた事件であり、民主主義社会ではそうした分断は当たり前のことである。それが凄惨な事件になったのは、国家権力が対立に介入したからである。当時の状況は、国民が分かれてそこへ国家権力が干渉する今日の状況と似通ったところがあると考えている。国民がみな同じ考え方をしなければならないとは自分は思わない」と述べていた。

4 評価

タイ政治の民主化の前途に立ちはだかつてきた阻害要因として重要なのは、軍隊と王党派である。21世紀に入って、両者は一体化が進んだ。それ以前に遡ると、軍隊がデモ隊に発砲し、国王がそれを咎め民主化を促した事例が2つあった。1973年10月14日と1992年5月である。2つは王室にとって光の部分である。

しかし、民主化は、1970年代も、1992年以後も、影の部分がある。1970年代の民主化に終止符を打ったのは、1976年10月6日の虐殺とクーデタであった。虐殺は王宮に近いタムマサート大学で白昼堂々で行われた。蛮行には王室と距離が近い国境警察や反共大衆組織「成人スカウト (village scout)」が密接に関わっていた。同日に決行されたクーデタ後に首相に任命されたのは国王側近の判事ターニンであった。国王はクーデタ指導者の軍人に、何かをするときにはターニンに相談するようにとの指示を事前に与えていた。

10月6日事件について、チューラーロンコーン大学文学部の歴史学者スターチャイ・イムプラーストは生前にこう記していた。「1976年10月6日は、タイの歴史上最悪の流血惨事が起きた日として歴史に刻まれている。政府職員といろんな右翼組織が協力して、バンコク中心部のタムマサート大学で学生や国民を虐殺した。その結果、少なくとも41名の死者と145名の負傷者が出た。…極めて奇妙なことに、この虐殺の犯人は一人たりとも逮捕されていない。それどころか、殺戮を免れた学生や国民3,094名が当日のうちに逮捕された。…最終的に訴追された19名はおよそ2年後に〔恩赦

で」釈放された。本来ならば被告人になるはずの殺人者に言及する政権や権力者はまったく存在しなかった。19名全員を釈放した首相クリアンサック・チャマナン大将ですら、もういいことにしよう、忘れようと述べた。殺戮のことは忘れよう、殺人犯に言及するのはもう止めにしようというわけであった。」「殺戮は首都の中心部で公然と行われており、世界中に報道された。しかも正体を隠そうとしない容疑者が多数いた。そうした容疑者は法律通りに逮捕されなかっただけでなく、国家、宗教、君主制の擁護者として賞賛を受けていた。この事件の問題点は、殺人者の背後にいて責任追及を免れさせる有力者」の存在である。

次に、1990年代の民主化は1997年憲法で加速した。その産物のタックシン政権を、王党派は共闘して2006年クーデタで打倒した。それをきっかけとして軍の主導権を握ったグループ（東部の虎）は、政党政治家の無力化に失敗したため、2014年に再びクーデタを決行した。その東部の虎は、2010年に都心で大量の実弾を用いてデモ隊を手荒に鎮圧して多数の犠牲者を出した。この惨事はあらゆるメディアを通じて報道されたせいもあり、多くの人びとの記憶に生々しく残っている。

1976年の犠牲者には共産主義者＝王室の敵という烙印が押された。10月6日政変はエリートが記録にも記憶にもとどめたくない出来事であり、学校では教えられない。2010年にも、虐殺の正当化を図るため、犠牲者にはテロリストの烙印が押された。王室の敵の烙印も重ねて押そうとした。しかし、2010年の当事者の多くはこれに納得していない。彼らは、1973年と1992年の美談を繰り返し聞かされ、銃弾から国民を守ってくださる国王へこの上もない敬愛の念を抱いていた。その忠実なる臣民は、軍隊がデモ隊に銃口を向けても制止せず、軍隊が発砲しても懲罰を与えなかった国王への失望を禁じえなかった。助けてくださると期待していた分、落胆は大きく、怒りに変わった⁶。

タイ現代史における大きな流血事件は4つある。先に引用したプーチャットカーン紙が、流血なら1973年や1992年のほうがよいと主張するのは、この2つが光の側にあるからである。流血は王室の権威強化と政治の民主化に寄与していた。対照的に、1976年と2010年は影の側にある。民主化に逆行するための流血であり、王室の権威を損ねた。2005年以後の脱民主化闘争は、10月6日事件と並んで影の側にあり、現在も継続中である。10月6日事件を民主主義への加害と認識するものにとっては、当日の蛮行を再現する動画を軍事政権批判のラップの背景映像として用いることに違和感は乏しいであろう。

最後に、多くのものはRADの歌詞が現実を正しく切り取っていると考えている。夥しい数の人々がそのビデオ・クリップを視聴し、「好き」をクリックしているのは、

⁶ これは、匿名の研究者が”Anti-Royalism in Thailand since 2006: Ideological Shifts and Resitance”, *Journal of Contemporary Asia*, 48(3)(2018): 363-394 で強調する点である。

彼らが共有しながら表明を尻込みしてきた軍事政権への憤りを RAD が代弁してくれたからである。仮に総選挙が実施されても、自由でも公平でもなければ、憤りは収まらないであろう。



物流から価値を。

モノを動かす。心で動かす。

 **MITSUI-SOKO GROUP**

物流から価値を。三井倉庫グループのビジョンであるこの言葉にはさまざまな意味が込められています。経済合理性があること、素早い対応ができること、正確であること、そしていうまでもなく安全であること…。物流に求められる「価値」はますます多様化しています。三井倉庫グループは、グローバルな視点で日々新たな挑戦を続け、物流から価値を生み出しています。